

美術・デザイン学教育における学士力の考察

【到達目標】

1. 社会、歴史、科学などの観点から視覚芸術表現を理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

美学、美術史、芸術学、色彩学、材料学、デザイン学、造形理論、メディアアートなど

【到達度】

- ① 視覚芸術表現が社会にもたらす役割（機能・社会的価値）を理解している。
- ② 社会における視覚芸術表現方法・手段を理解している。
- ③ 視覚芸術表現・造形表現の歴史を概観できる。

【測定方法】

①から③は、筆記試験、レポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより、確認する。

【到達目標】

2. 感受性に富み、創作や鑑賞を通じて視覚芸術表現が理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

構成、デッサン、アートプログラミングなどの専門分野に求められる技術、鑑賞など

【到達度】

- ① 芸術作品を理解できるだけでなく、様々な現象の中に潜在する芸術性を理解し、伝達することができる。
- ② 美術・デザインを解析して、表現および鑑賞できる。
- ③ 素材・メディア等を表現に活用し、創意工夫することができる。

【測定方法】

①から③は、筆記試験、研究発表、作品提出、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などにより確認する。

【到達目標】

3. 美術・デザイン系分野における専門の理論と技術を統合し、社会貢献に寄与できる

【コア・カリキュラムのイメージ】

作品制作、研究論文、作品発表、企画・製品化、インターンシップなど

【到達度】

- ① 表現のコンセプトを記述、口述でき、それに沿って具現化できる。
- ② 市民生活や組織との関係の中で作品制作を通じて、社会での機能性、利便性、生活の質向上などの実現に取り組むことができる。

【測定方法】

①と②は、講評会、外部評価、企画・提案書、報告書、論文などにより、確認する。